

# 初級ウクライナ語

科目責任者：竹 内 高 明（基本医学）

## I. 前 文

本講座では、極めて不幸な契機ではあるが、ロシアによる全面侵攻を機に日本でも広く知られるようになったウクライナの公用語であるウクライナ語の基本的な知識を身につけ、国内外のウクライナ人と交流し、ウクライナの文化・歴史に触れる手がかりとする。

## II. 受入可能人数

人数制限は特に設けない。

## III. 担当教員

竹 内 高 明（基本医学）

## IV. 学習内容

ウクライナ語の文字と発音・初級文法を学び、短いテキストの読み書きや簡単な日常会話の練習を行う。履修人数に応じ、可能な範囲でペアワークやグループワークを実施する。

## V. 学修の到達目標

1. ウクライナ語の発音・基礎的文法知識・語彙を習得する。
2. ウクライナ語による簡単な日常会話ができる。
3. ウクライナ語による簡単な読み書きができる。
4. さらに継続してウクライナ語を学ぶためのスキルを習得する。

## VI. 成績評価の方法・基準

学習内容に即して各授業の初めに行う確認テスト（各回10分程度）30%、口頭試験（一人15分程度）40%、授業への取り組み・課題提出・出席を30%として評価する。

## VII. 教科書・参考図書・AV資料

『ニューエクスプレス+（プラス）ウクライナ語』（中澤英彦：著、白水社）を教科書として用い、必要に応じてプリントを配布し、視聴覚教材を導入する。

## VIII. 質問への対応方法

授業中・授業後に受け付けるほか、語学・人文教育部門室（本部棟3階）でも月～金曜に対応可。後者の場合は、事前に内線番号2161、またはメールアドレスt-take@dokkyomed.ac.jpを通じてアポイントを取ること。

## IX. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間 \*（ ）内はそれに必要な時間の目安

授業で用いる読解テキストや視聴覚教材を事前に読みまたは視聴し、語彙や文法事項の確認を行う（15分程度）。授業の内容に即して与えられる書面または口頭の課題を準備し、確認テストに備える（15分程度）。

## X. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。

CM-02-01-01 患者や家族の多様性（高齢者、小児、障害者、LGBTQ、国籍、人種、文化・言語・慣習の違い等）に配慮してコミュニケーションをとることができる。

SO-06-01-03 個や集団に及ぼす文化・慣習による影響（コミュニケーションの在り方等）を理解している。

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

事後課題や確認テストについては添削・返却し、授業中に解説する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP    ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

五  
学  
年